

Q 地域経済活性化について 今後の計画は

A 第5次振興計画をより具体的に進める



浅野富男議員

県からの財源も確保し、第5次振興計画(後期)をより具体的に進め地域経済の活性化につなげたい。

問

人口減少に大きな影響がある子育て支援をどのような考えで取り組むのか。

保健福祉課長

町では妊娠、産、新生児期、乳児期、幼児期と成長に合わせて支援する仕組みとして「子育て世代包括支援センター」事業について検討しており、安心して生み育てられる環境を整えていく。

問

まちづくりは、その地に住民が続くことや住民自治も大切になる。次年度以降の計画はどのようになるか。

住民生活課長

人口減少は町内会などどの住民組織の担い手不足による共助の部分での防災力に与える影響も危惧され、また地域コミュニティの機能低下にもつながる。安心安全で住み続けられるためには地域リーダーの育成や町内会を母体とした自主防災会の強化を図りたい。

問

政府の方針では小さな拠点づくりの話が出てくるが、そのような背景を見据えた上での今後の進め方について、どのような考えか。

町長

一番のベースは個人一人ひとりで、60余りある町内会のコミュニティがベースではないかと思う。その地区でコミュニティを維持発展させるという思いを常に持つことが重要だと思う。同時に町も維持するための支援をする必要がある。町内会の自主性を尊重し、町も関与することで町としての維持発展があると考えている。

問

その地域で生き続けられるためには産業や生活面での支えが必要になってくる。高齢になれば公共交通機関も必要になるが、そういったネットワークづくりに関しての考えは。

町長

ネットワークは、商工会で運営している乗り合いタクシーや公共交通のバスも運行されている。地域型に目を向けた形での対応、生活基盤の維持発展というのが非常に重要であると考え、今後第6次振興計画に向けて検討していきたい。



家族連れで賑わった大木戸歴史村づくりの会共催の七夕まつり

産業建設

農業者育成や都市整備について学ぶ

11月1日、2日の2日間、産業建設常任委員会の県外行政調査を実施しました。1日目は、秋田県横手市の実験農場を視察しました。この実験農場では、園



横手市実験農場で説明を受けるようす

次に、秋田県紫波町のオガールを視察しました。オガールは、「おがる」（方言）＝「成長する」、ガール＝「駅（フランス語）」の意味で、紫波中央駅前に、役場や図書館、体育館、ホテル、小売店などが整備されている場所です。補助金に頼らない公民連携の手法による都市整備事業によるもので、民間活力を活用したまちづくりが進められており、まちづくりには、地

芸品目栽培実証事業や、野菜の接木苗など農家への供給などを行う地域種苗センター事業のほか、新規就農者等育成事業として、今年度は、2年目研修生4名、1年目研修生7名を受け入れ、農業の担い手の育成を図っています。研修生には生活支援金として月10万円が支給されるなど受け入れ体制が充実していることがわかりました。

議会運営委員会所管事務調査

先進地の議会制度を学ぶ

元住民や企業、行政が三位一体で取り組まなければならないと感じました。2日目は、岩手県平泉町議会を表敬訪問しました。寺崎副議長、升沢議員、千

11月5日、6日の2日間、議会運営委員会の所管事務調査を実施しました。1日目は只見町で、議会制度について説明を受けました。只見町は、議会改革として、1年中議会を開催することができるとして、県内でもトップクラスの議会運営を行っている。通年議会制とすることで議会の招集権が町長から議長となり、災害対策をはじめ様々な課題対応がすぐに行うことができるなど、議会の独自性

葉議会事務局長に対応いただき懇談しました。その後、升沢議員に中尊寺を案内していただきました。（報告者 村上正勝）

が發揮できるようになります。また、只見町は、ユネス

コエコパークに登録され、全国ブナ林

フォーラムを

開催し、ブナ

林保全の提言

をするなど全国的に注目されて

いる町でもあります。

予算や決算の審議方法について

も説明を受けました。その後、

只見町ブナセンターを見学しました。

2日目は、柳津町の西山

地熱発電所を見学しまし



只見町議会の制度を学びました

た。原発事故以来、再生可能エネルギーとして、太陽光発電や風力発電などが注目されていますが、その一つとして地熱発電があり、この発電所は東北電力の6つの発電所の一つです。地熱発電は設備投資も大きく、地理的にも難しいと感じました。（報告者 八島博正）